



学校統合見直し、地域の活性化を

真野 和久 議員

開発・人口増は研究して進めたい

市長

「八開地区から学校がなくなるのは、考え直してほしい」「学校が近くにあるからここに家を買ったのに、なくなったら本当に困る」と見直しを求める声がほとんど。その中で、教育委員会はどうしていくのか。

教育部長 平成29年度、2回目の保護者説明会と同時期に基本計画策定準備委員会を設置。中の作業部会で、説明会で出された事柄等を中心に検証及び検討をしている。30年度は、検討結果をもとに保護者・地域の方への説明会を開催する予定だ。

学校の統廃合の問題は地域の問題だ。まず地域をいかに元気にするかをしっかりと議論すべきだ。12月議会で、空き家対策を活用した住宅開発の可能性を提案した。弥富市は、新婚で弥富市に住宅取得する場合や転居してくる場合の費用の一

部を助成する制度がある。愛西市でも特に立田・八開地区で子育て世代の転入に対する住宅取得費や転居費などの支援をしてはどうか。住んでいないところを宅地として考えれば、何件も家を建てることができる。開発を進める誘導として住宅取得費等の支援を含め、住環境をつくることが重要ではないか。

市長 弥富市の状況を確認し、どのように取り組めるか検討したい。市街化調整区域の縛りの中で開発、人口増は、厳しい実態もある。他市の事例もよく研究しながら進めたい。

通学路の交差点 安全対策再交渉

町方町古江の信号交差点は、以前から、通学の安全のために改善要望が出ている。一定の改善はされたが、まだ要望は強い。改善の考えは。

産業建設部長 グリーンカラー塗装及び注意看板の設置などの対策を、限られた用地の中で行った。

学校から、交通安全対策要望として、具体的にどんな事が出されたか。**産業建設部長** 28年度の通学路合同点検で、児童が信号待ちをするスペースを拡張してほしいという要望を受けた。

土地の購入や借り入れで、スペースをつくる考え

えは。

産業建設部長 過去に地権者の協力が得られず、断念した。現時点では難しい。

危険な状況が続いている。地権者との交渉から七、八年たっている。新しい形で対応を。

産業建設部長 機会を捉えて考えていきたい。

その他の質問

●介護支援・高齢者支援の充実を



▲通学の安全が求められる町方町古江交差点